

衆議院議員の松尾明弘です。

コロナウィルス禍での本シンポジウムの開催，非常に大変な準備だったと推察します。関係者の皆様に心より敬意を表します。私自身，国会議員になる前は弁護士でしたので，死刑制度の是非については事あるごとに向き合ってきました。言うまでもありませんが，死刑制度の是非は，人権擁護の観点から考える必要があります。日本が真に人権を大切にすることが出来る国であるか，が試されると言っても過言ではありません。

所謂人質司法が行われている実態とも合わせ，日本の刑事司法は大きな改革が必要であると考えています。私も微力ながらその一助となるよう，国会において全力で取り組んで参ります。本日のシンポジウムが死刑制度廃止への大きな一歩となるよう，心より祈念いたしまして私からの挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

令和3年4月12日

日弁連シンポジウム

立憲民主党 衆議院議員

松尾 明弘 様